

新たな道路ネットワークと地域活性化

岐阜市の「北の玄関口」・東海環状自動車道岐阜IC（仮称）・岐阜三輪SIC

東海環状自動車道は、愛知県、岐阜県、三重県の3県を環状に連結する延長約153kmの高規格自動車専用道路です。岐阜市内においては、令和2年3月、東海環状自動車道岐阜三輪スマートICが設置され、県内外と岐阜市内を結ぶ交通の利便性が格段に向上しました。本年度中には岐阜市北西部に岐阜IC（仮称）の開通が予定されています。岐阜市内では、国道21号の岐阜市内立体化事業が始まり、すでに高架部分外側の準備工事が始まるなど、新たな道路の建設・完成により、未来に向けた新しい動きが加速しています。

今月号では、一般岐阜市において行われた座談会「東海環状道で広がるぎふの未来」（柴橋正直岐阜市長、当所村瀬幸雄会頭：聞き手 国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所 松實崇博所長）の内容について掲載いたします。



「東海環状道で広がるぎふの未来」

【座談会】 期日／1月26日 場所／岐阜市役所

●聞き手
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所長
松實 崇博氏

岐阜市長 柴橋 正直氏
当所会頭 村瀬 幸雄氏



左から 国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所長 松實崇博氏、岐阜市長 柴橋正直氏、岐阜商工会議所 村瀬幸雄会頭

能登半島地震で幹線道路の重要性を再認識

松實 まずは令和6年能登半島地震の関係からお話ししていきたいと思えます。報道であった通り、幹線道路脇の土砂崩れや路面の陥没で道が寸断され、救助隊や支援物資などが入れないなどの課題が浮き彫りになりました。災害時の幹線道路の役割についてどのようにお考えですか。

柴橋 能登半島地震の際は、すぐに被災地に緊急消防援助隊として岐阜市消防本部の職員を派遣し、その後もDMAT（災害派遣医療チーム）やモバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）、給水車なども要請に応じて送りました。その中で印象に残ったことは、緊急消防援助隊が東海北陸自動車道を通って被災地に向かう姿をみた県民から「頼もしかった」というお声を数多くいただいたことです。私は国会議員時代から、東海環状自動車道の整備に力を入れてきましたが、この整備の意味の一つには、太平洋側の南海トラフ巨大地震への備えという面があります。今回は日本海側での震災でしたが、災害を考える上でも、東海環状自

動車道の日でも早い全線開通に期待しています。

村瀬 本日に大きな災害が起こってしまいました。そして災害後の救出活動などでも困難を極めました。その要因の一つに道路が通れなくなったことが挙げられています。東海北陸自動車道と東海環状自動車道が完成しネットワークが多重化するということは、防災面にとつて大きなこと。東名高速や名神高速、新東名高速等ともつながり、バイパス的な機能も大きいです。耐久度の高い道路網ができるということでは防災面、そして産業、観光面でも大事なインフラになっていくことを期待しています。

岐阜三輪スマートIC、開通効果は絶大

松實 2026年度の全線開通に向けて工事が進む東海環状自動車道ですが、岐阜三輪スマートICはすでに開通しています。そのストック効果などをお聞かせいただけますか。

柴橋 効果は大きく三つあります。一つ目は、すぐ近くの岐阜ファミリパークへの効果です。開通後、県外から多くの方にご来園いただいております。そしてさらなる魅

力向上のために総合スポーツ公園化を進めています。完成後は、そこで開かれるさまざまなスポーツ大会の参加者やスタッフの皆さまに東海環状自動車道を通って来ていただくことになるなど、大規模な大会を開催しやすくなることに期待しています。

二つ目は防災の面です。岐阜ファミリパークは、ICからすぐの場所にある広大な場所という強みを生かし、災害時には支援に関わる車両や物資が集まる拠点として大きな意味を果たすことになるので

しょう。国にも支援いただいで、早期に整備を進めて災害に強い地域づくりを目指していきます。

三つ目は産業面で、農地が多いこの地域を農業6次産業化エリアとして、農業関係の企業に進出いただき、地域で雇用を生み出していただくよう取り組んでいきたい。既に手を挙げてくださっている企業もありますので、引き続き岐阜市も間に入って地権者と調整していきます。

村瀬 私からは二つあります。一つ目は産業面で、岐阜三輪スマー





岐阜市長
柴橋 正直 氏

トICができるまでは岐阜市内には高速道路のICがなく、岐阜各務原ICや岐阜羽島ICを使っていました。岐阜IC(仮称)も含め、二つのICができることで全く違う方向からも岐阜市にアクセスできるようになり、時間短縮の効果は大きいです。すでに岐阜三輪スマートICの近くでは、民間ベークで食品や農業関係の産業観光的なスポットの開発計画などの動きも始めています。

二つ目は観光面で、中部縦貫道や冠山トンネルの開通により、岐阜に最も近くなった福井県をはじめとすると、北陸3県との交流の機会の増加に期待しています。

岐阜IC(仮称)の開通は 企業立地や観光面で期待大

松實 東海環状自動車道の岐阜IC(仮称)の開通に向けて期待する点は。



当所会頭
村瀬 幸雄 氏

国道21号の 岐阜市内立体的成功へ一丸

松實 国道21号の岐阜市内立体的も国土交通省の大きな事業です。立体化を進めていく中で工事の交通渋滞の悪化が懸念されています。そこで、国土交通省や県内自治体、企業でつくる岐阜県道路交通渋滞対策推進協議会は昨年11月、時差出勤や在宅勤務を進めて通勤時間帯の渋滞を解消する「岐阜県TDMプロジェクト※」を始めました。現状で60社程度が協力を申し出てくださっていて、まずは100社に伸ばすことを目標としていますのでぜひご理解いただ



聞き手
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所長
松實 崇博 氏

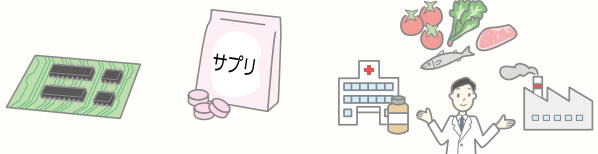
村瀬 岐阜市内立体化は岐阜市民の長年の悲願であり、着手していただけて感謝しています。国道21号は、東西を結ぶ重要な物流道路であり、立体化で渋滞だけでなく事故を減らすことにも寄与するものと期待しています。
岐阜市として、今年1月からTDMに参加し時差出勤ができる職員には取り組んでもらっています。岐阜市が取り組むことで、市内の企業の皆さんの参考になるのではと考えています。一定の年数がかかる工事ですので、市民みんなが協力していきたいです。
村瀬 今までの渋滞の解決方法は、道路やバイパスを造るというものでしたが、時差出勤などのソフト面からアプローチしていくTDMは良い取り組みだと考えています。岐阜商工会議所でも会議や会報等で協力を呼び掛けています。運転手の残業規制で物流の停滞が予想される「2024年問題」についても、渋滞を減らすことは解決策の一助を担うでしょう。

松實 TDMへのご協力ありがとうございます。東海環状自動車道の全線開通や国道21号の岐阜市内立体的の事業推進に向けて、今後ともよろしく願います。

柴橋 特に期待しているのは観光面です。岐阜城に関しては、21年12月に「史跡岐阜城跡整備基本計画」を策定し、現在は発掘調査などを行っています。山上部も調査しながら木の一部を切らせていただき、城郭景観の復元整備を進めていきます。山麓でも庭園の復元整備や、ビクターセンターの整備なども計画しています。さらに25年3月には薬市薬座の城下町をイメージしたカフェや物販などの施設ができます。岐阜IC(仮称)が



できれば、名神高速に直接岐阜市がつながることができそうです。関西圏との交流人口が増えることに期待しています。
もう一つは学術面です。岐阜薬科大学はキャンパスの移転統合を進めており、28年度中に岐阜大学の隣接地に完全に移ることにより、岐阜IC(仮称)からすぐの場所に学術研究拠点が完成します。大学とも手を組み、ライフサイエンス分野という将来性の高い分野の企業を誘致し、IC周辺のまちづくり



を進めていきたいと考えています。地域の骨格となる道路の整備が、地域の持続的な発展に重要な役割を果たすことに期待するとともに、道路のストック効果を最大限に生かすため、未来のまちづくりに向けてしっかりと投資をしていきたいです。
村瀬 東海環状自動車道の西回りルートの完成が近づくことに、大きな期待を持っています。すでに完成している東回りは、企業進出が相次ぎました。東回りは地形的に丘陵地帯が多く、またトヨタ自動車のある愛知県豊田市にも近いので、輸送機器メーカーや物流に関する拠点多くできました。一方、西回りは水が豊富で平地が多い場所。東回りとは異なる産業として、柴橋市長がおっしゃったような医薬品、健康食品、電子部品関連分野の立地候補として大きな可能性があると思っています。
また、岐阜IC(仮称)近くには岐阜大学医学部附属病院もあります。ICと大学病院がこれだけ近くにあるところは東海地方全体を見てみても、なかなかないのではないでしょうか。さらには岐阜薬科大学も移転して来ます。医学の面から考えても開通後がとても楽しみです。

東海環状自動車道 東回り区間(豊田東JCT~関広見IC) 西回り区間(関広見IC~新四日市JCT)

東海環状自動車道は、これまでに、東回り区間(豊田東JCT~関広見IC)は、豊田東JCT~美濃関JCT間が平成17年3月19日に中部国際空港開港、愛・地球博開催に合わせて開通。平成21年4月18日に美濃関JCT~関広見IC間が開通しました。

西回り区間(関広見IC~新四日市JCT)は、早期の全線開通に向けて事業が進められており、令和6年度には山県IC~大野神戸IC間が、令和8年度には、養老IC~(仮称)北勢IC間の開通が予定されています。

全線開通により、東名・名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、新東名、新名神高速道路と一体となり、広域的なネットワークを形成していきます。

